

高松養護学校 肢体不自由教育スタートアップ講座

障害理解について

高松養護学校 自立活動室

障害理解のポイント

- ① 障害特性を知ること
- ② 障害の本質を知ること

ポイント① 障害特性を知ること

障害特性とは、

障害にみられる 「行動や認知の特徴」

主な障害 脳性まひ（痙直型）

- 上半身より下半身のまひが目立ちがち
- 肩をすくめ、首を縮めたような姿勢
- 車いすを使う人から、一人で歩ける人まで、状態は様々
- 視力や、見てとらえることに問題を持つ人が多い
- 音に敏感
- コツコツまじめタイプ？

主な障害 脳性まひ（低緊張型）

- 普段から筋緊張が弱く、重力に押しつぶされるような傾向
- 体幹や四肢が細く、関節の動く範囲は過度に大きい。ただし加齢に伴って関節の拘縮が起こる
- 首や胸の変形によって、呼吸や摂食の問題が起こりやすい
- 身体的に重度な児童生徒が多い

主な障害 脳性まひ（アテトーゼ型）

- 何かしようとする、全身が意思とは関係なく動いてしまう
- 力の調節ができにくく、物の操作や発声にも難しさがある
- 左右差が強く、成長と共に変形や痛みが大きくなる
- 知的発達と身体的発達のギャップが大きくフラストレーションがたまりやすい
- 「やってみたい」という意欲が高い

主な障害 筋ジストロフィー

- 加齢に伴って全身の筋力が弱くなる進行性疾患
タイプによって予後は様々
- 歩いている時期には転倒や疲れに注意する
- 「できなくなることが増える」ことによる本人
保護者の心理的な不安定が起こることがある
- 進行に伴い呼吸障害が問題となる。近年は医療
の進歩で平均余命が延びてきている
- 知的障害や発達障害様の症状をあわせ持つこと
もある

主な障害 二分脊椎

- 脊柱（脊髄）の形成不全によって起こるまひ
- まひの程度は様々で、独歩可能な人もいれば車いすを利用する人もいる
- 運動と感覚の両方のまひが起こる。まひがある部分の感覚が鈍く、けがをしても気づきにくい
- 排尿、排便の障害を伴う

大切なことは・・・

障害特性を知ることは、
必要な支援や手立てを考える
ヒントになる

しかし・・・

障害特性 ≠ 子どもの実態



（一般的な傾向）



（一人ひとり千差万別）

ポイント② 障害の本質を知ること

障害の本質とは、

身体機能の障害があることで、
「どんな活動が制限され、どんなことが
できないのか？」ということ

障害の3つの側面



病気や身体
機能の障害



日常生活の
制限



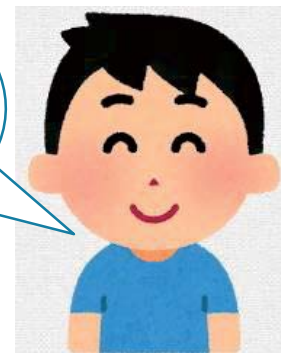
社会参加の
制限

A君



電動車いす 利用
自走できる

困り感
小



同じ程度の
身体機能の
障害

日常生活の
制限

Bさん



電動車いす 不使用
自走できない

困り感
大



身体機能障害の重さが、必ずしも
その人の障害の程度を示すものではない

Bさん



病気や身体機能
の障害
改善は難しくても

手伝ってもらおう



バリアフリーな
環境

日常生活の
改善



社会参加の
広がり

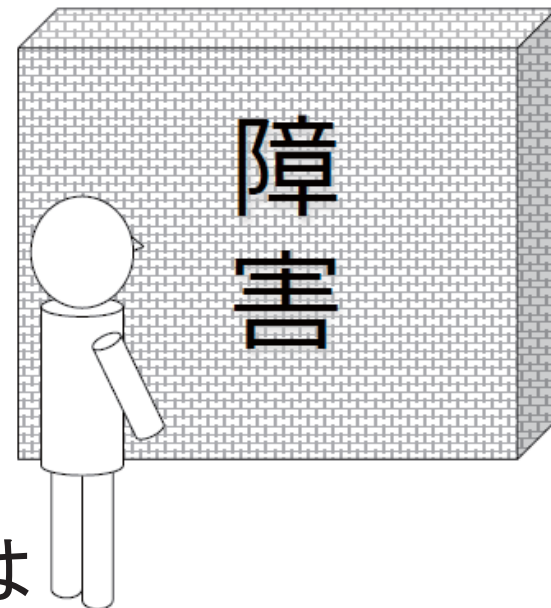
工夫することで
軽減したり無くしたりできる

「～したい」と思うと、障害があらわれる



障害は
本人がもっているもの

状況を変えるのは困難



障害は
本人の前にあるもの²

工夫次第で状況を変えられる

肢体不自由は、「したい」の不自由

【引用】滋慶医療科学大学院大学岡耕平専任講師
魔法のワンドプロジェクト全国セミナー基調講演〈高松会場〉公開資料より抜粋
<http://maho-prj.org/?p=751>

「～したい」という気持ちを
不自由にさせないために
「できる」を促す

「できる」の考え方

コツコツ積み上げて
できるようになる
本人の努力

道具や環境を
工夫して
できるようにする
環境の設定

どちらの視点も
もっておかなければいけない

道具や環境の工夫

例えば

- ・移動の障害 ⇒ 電動車いす
- ・コミュニケーションの障害 ⇒ コミュニケーション機器等
- ・黒板を書き写せない障害 ⇒ 代筆、タブレットの写真機能
- ・文字を読むことの障害 ⇒ 代読

**医療だけでは解決できない
教育の大事な役割です**

二次障害について

経年齡的な変化

骨や関節が変形

色々な疾患を発症

⇒ 呼吸、嚥下、消化器、循環器 などへの影響

早期からの予防や備えが大切です！

今できることを責任をもって考え、実践する

チームワーク

子どもの問題は様々
一人の力では難しい課題も多い

- 保護者
- 学級担任間
- 校内の関係機関
- 校外の関係機関 など

協力が必要